

国史跡福岡城跡整備基本計画 [概要版]

1. 整備基本計画策定の目的

(1) 目的

- ①国史跡福岡城跡を適切に保存し、継承
- ②本市の歴史・文化・まちづくりに寄与

(2) 意義

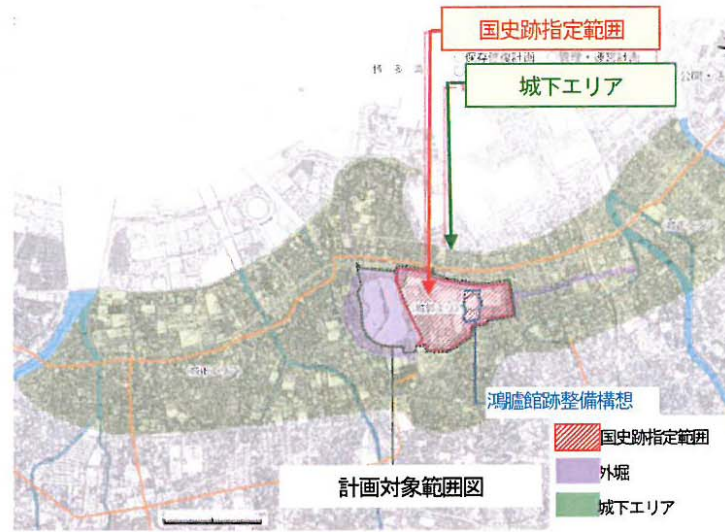
- ①市民の郷土愛を育む本市の歴史的シンボル
- ②歴史的価値の向上と未来への継承
- ③市民に憩いとロマンを与える環境の形成
- ④「見どころ」の創出による経済的活力向上

(3) 想定期間

平成26年度～平成40年度までの15年間

(4) 対象範囲

- ①「国史跡福岡城跡」の指定範囲
- ②周辺環境整備のため城下エリアも対象



2. 整備の理念と方針

(1) 基本理念

- ①福岡城を本市の歴史のおよび文化財保護の象徴とし、後世へ継承
- ②観光やまちづくり、文化財活用ネットワークの拠点化
- ③魅力ある多面的な活用を市民一体となって推進

(2) 基本方針

- ①復元対象時期は幕末期(史跡鴻臚館跡を除く)
- ②文化財的価値の保存と顕在化の推進
- ③歴史の重層性をわかりやすく表現
- ④史跡地内の現代諸施設の廃止・移転を推進
- ⑤史跡と都市公園が調和した良好な景観を形成
- ⑥学び、楽しめる空間や機能を創出
- ⑦「ユニバーサル都市 福岡」の理念を配慮した整備

3. 基本計画

(1) ゾーニング

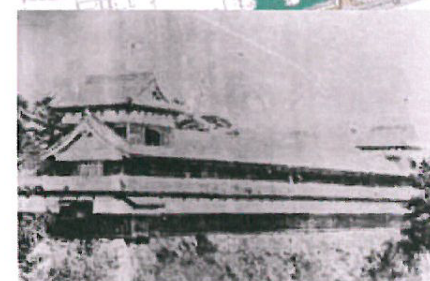
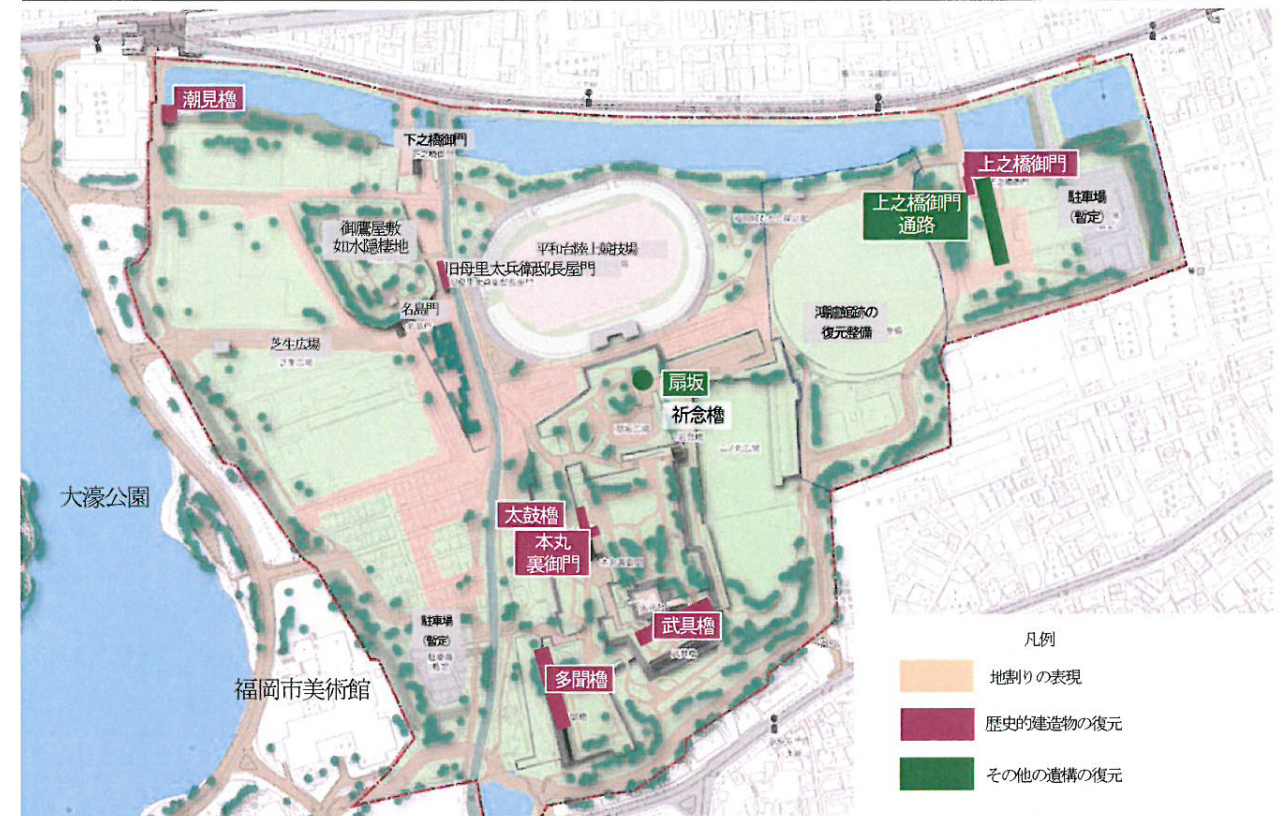
(区分)	(整備の考え方)
本丸・二ノ丸ゾーン	・櫓等を重点的に復元整備 ・城郭としての景観形成と保全
三ノ丸ゾーン	・市民の活用と憩いの場づくり ・城の雰囲気を活かした空間形成
門・堀・土塁ゾーン	・外部からみた「城らしさ」の修景
鴻臚館ゾーン	・福岡城との調和した景観形成 ・歴史の重層性を表現



4. 事業計画

(1) 段階的事業計画の推進

短期 (5年)	中期 (6~15年)	将来像 (16年~) (参考)
『福岡城跡の骨格の顕在化による魅力発信と誘客』	『福岡城跡の歴史の重層性の表現と歴史的景観及び利活用の充実』	『福岡城跡を歴史資源保存・活用のシンボルに』
復元：潮見櫓 修理：長屋門、多聞櫓、石垣 事業費：約22億円	復元：武具櫓、裏御門、太鼓櫓、祈念櫓、扇坂など 修理：石垣 事業費：約48億円	復元：花見櫓、表御門、本丸御殿など 修理：石垣など
福岡城跡整備基金(仮称)の創設・寄付募集 ~市民と一体となった整備の推進~		



城内にあった頃の武具櫓(古写真)
福岡城最大規模の建造物
長さ約63m、三階櫓高さ約13m



将来像 (本丸・二ノ丸ゾーン)